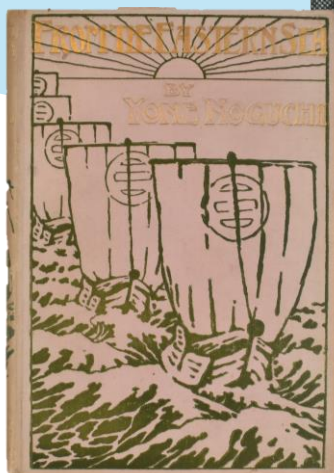


高志の国文学館 常設展示室クローズアップコーナー特集展示

翁久允と生誕150周年記念

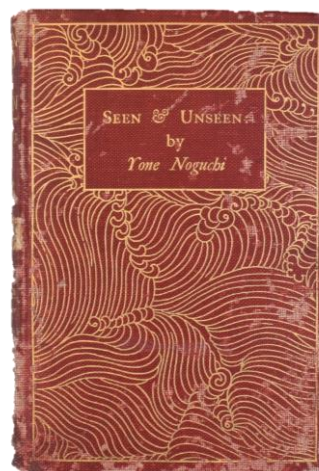
野口米次郎／ヨネ・ノグチ



Yone Noguchi, *From the Eastern Sea*. Unicorn Press, 1903 (個人蔵)



翁久允 (左) と野口米次郎 (右)
(『翁久允全集 第4巻』口絵写真)



Yone Noguchi, *Seen & Unseen*. Gelett Burgess & Porter Garnett, 1897 (個人蔵)



野口米次郎 自筆原稿「印度の詩精神 (上)」
(高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料)

2025年11月19日(水)～ 2026年6月29日(月)

前期: 11月19日(水)～ 3月16日(月) / 後期: 3月18日(水)～ 6月29日(月)

前期・後期ですべての展示品を入れ替えます

開館時間: 9:30～18:00 (観覧受付は17:30まで)

休館日: 毎週火曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日 ※詳しくは当館HPをご覧ください

常設展観覧料: 一般200円(団体160円)

※次の方は、常設展を無料で観覧できます。70歳以上の方及び大学生(証明できるものが必要です)、小・中・高校生及びこれに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方

主催: 高志の国文学館 協力: ヨネ・ノグチ学会

翁久允と生誕150周年記念 野口米次郎／ヨネ・ノグチ

アメリカの精神文化を身につけた日本人が少ない。ヨネ・ノグチはその最高峰であった。彼の二重国籍的悲哀はこれからの日本人が身をもって味はってゆかねばならぬ悲哀である。翁久允「あゝヨネ・ノグチ」（『高志人』第12巻8月号、1947年8月）より

翁久允（おきな・きゅういん 1888～1973）は、明治40年（1907）にアメリカに渡り邦字新聞で小説家、編集記者として活躍、大正13年（1922）に帰国して『週刊朝日』の編集に携わった後、昭和11年（1936）、富山で郷土文化誌『高志人』を創刊主宰した富山県出身の作家・ジャーナリストです。野口米次郎／ヨネ・ノグチ（1875～1947）は、翁が在米時代に出会い、野口が逝去するまで親交を結んだ文学者です。ノグチは、明治26年（1893）にアメリカに渡り、アメリカやイギリスで詩人として認められました。明治37年（1904）に日本に帰国した後も、俳句や浮世絵をはじめとした日本の文学、文化を海外に紹介しました。

令和7年（2025）はノグチの生誕150周年に当たります。今回の展示ではこれを記念し、国際的に活躍した二人の文学者の親交を伝える資料を、翁久允旧蔵資料を中心に紹介するとともに、ヨネ・ノグチ学会のご協力を得て、ノグチの貴重な英詩集をはじめとした書籍や写真を紹介します。

[主な展示作品・資料]

◆前期

- 詩誌 *The Lark: Book the Second No's. 13-24 May 1896 to April 1897*. San Francisco: William Doxey, 1897（個人蔵）
- 英詩集 *Yone Noguchi, Seen & Unseen; or, Monologues of a Homeless Snail*. San Francisco: Gelett Burgess & Porter Garnett, 1897（個人蔵）
- 小説 *Miss Morning Glory, The American Diary of a Japanese Girl*. New York: Frederick A. Stokes Co., 1902（個人蔵）
- 英詩集 *Yone Noguchi, From the Eastern Sea*. London: Unicorn Press, 1903（個人蔵）
- 書簡 *Yone Noguchi Postcard to Gilmour, 1 Sept. 1905*（個人蔵）
- 詩集 あやめ会『あやめ草』東京: 如山堂書店, 1906年
- 英詩集 *Yone Noguchi, The Pilgrimage*. New York: Mitchell Kennerley, & London: Elkin Mathews, 1912（個人蔵）
- 評論 *Yone Noguchi, Lafcadio Hearn in Japan*. London: Elkin Mathews, & Yokohama: Kelly & Walsh, 1910（高志の国文学館蔵）
- 詩集 野口米次郎『二重国籍者の詩』玄文社詩歌部, 1921年（個人蔵）
- スクラップブック「翁六溪創作集」1919年（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 書簡 野口米次郎 翁久允宛封書 [1920年] 8月4日付（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 評論 野口米次郎『浮世絵解説』東京: 春秋社, 1929年（個人蔵）

約40点

◆後期

- 書簡 野口米次郎 翁久允宛封書 [1935年] 7月8日付（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 評論 野口米次郎『印度は語る』東京: 第一書房, 1936年（個人蔵）
- 英詩集 *Yone Noguchi, The Ganges Calls Me*. Tokyo: Kyobunkwan, 1938（個人蔵）
- 詩集 野口米次郎『起てよ印度』東京: 小学館, 1942年（個人蔵）
- 雑誌 『高志人』第3巻第12号, 1938年12月 翁久允「詩聖タゴール対野口米次郎の論争」掲載（高志の国文学館蔵）
- 原稿 野口米次郎「翁君に送る書」（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 原稿 野口米次郎「印度の詩精神（上）」（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 書画 野口米次郎（書）、翁久允（画）「南に往くもの密法の行者 青龍の神秘」（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 詩集 野口米次郎『八紘頌一百篇』東京: 富山房, 1944年（個人蔵）
- 書簡 野口米次郎 翁久允宛封書 [1945年] 8月20日付（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 書簡 野口米次郎 翁久允宛葉書 [1946年] 11月24日付（高志の国文学館蔵 翁久允旧蔵資料）
- 随筆 野口米次郎『自叙伝断章』東京: 二葉書店, 1947年（個人蔵）
- 雑誌 『高志人』第12巻第6号, 1947年8月 翁久允「あゝヨネ・ノグチ」掲載（高志の国文学館蔵）

約40点

高志の国 文学館

KOSHINOKUNI Museum of Literature

〒930-0095 富山県富山市舟橋南町2-22

TEL 076-431-5492

FAX 076-431-5490

<https://www.koshibun.jp>



利用のご案内

〈開館時間〉9:30～18:00（観覧受付は17:30まで）
〈休館日〉毎週火曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
〈常設観覧料〉一般200円（団体160円）
※次の方は、常設展を無料で観覧できます。70歳以上の方及び大学生（証明できるものが必ず必要です）、小・中・高校生及びこれに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方。

交通のご案内

- JR・あいの風とやま鉄道 富山駅南口から／◎市内電車「富山駅」のりばから大学前行または環状線「県庁前」下車、徒歩5分 ◎徒歩15分 ◎コミュニティバスまいどはや（西ルート）「富山中部高校前」下車、徒歩2分
- 富山空港から／◎タクシー約20分
- 北陸自動車道富山ICから／◎自動車約20分



心にたっぷり、栄養補給!



館長 室井 滋